14. 仮定法

1.

次の日本文に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(1) もし彼の住所を知っているなら、私は彼に この本を送るだろう。

(book/I/I/,/send/his/./if/him/this/address/knew/would)

(2) もし私が鳥なら、あなたのところへ飛んでいけるのに。

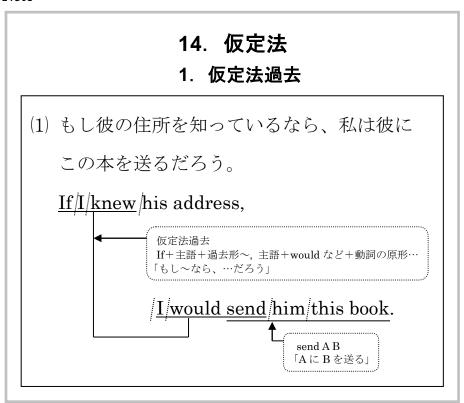
(I/, /fly/a/./you/if/to/I/bird/were/could)

(1) If I knew his address,

I would send him this book.

(2) If I were a bird, I could fly to you.

Note



仮定法とは、大雑把に言えば、事実ではないことを空想して述べる言い 方だということができますが、基本となる形には「仮定法過去」と「仮定 法過去完了」の2つがあります。まず、この2つを理解しておくことが大切になります。

まず、仮定法過去とは次のようなものです。

仮定法過去…現在の事実に反すること、またはあり得ない ことを想像して述べる表現。

名前は「仮定法過去」ですが、あくまで「現在の事実に反すること」です。動詞の過去形を使っていることから、こんな名前になっていますが、ここがまずみんな混乱しやすいところです。注意してください。そして、その基本の形と意味は次のようになります。

「仮定法過去の基本形〕

If+主語+動詞過去形 ~, 主語+would+動詞原形… should could might

[意味]

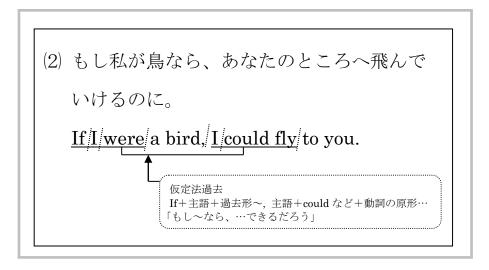
「もし~なら、…だろう[…するのだが]」(would, should のとき) 「もし~なら、…できる(のに、のだが)」(could のとき) 「もし~なら、…かもしれない(のに、のだが)」(might のとき)

- If I knew his address, I would write to him.
- (もし私が彼の住所を知っているなら、手紙を書くだろう。)
- If I knew his address, I could write to him.
- (もし私が彼の住所を知っているなら、手紙を書くことができる。)
- If I knew his address, I might write to him.
- (もし私が彼の住所を知っているなら、手紙を書くかもしない。)

If \sim の部分を「if節」または「従属節」、後半の主語+would など+動詞原形…の部分を「主節」または「帰結節」といいます。

(1)の問題では「もし彼の住所を知っているなら、私は彼にこの本を送るだろう。」ですが、実際は「彼の住所を知らないので、本を送らない」ということで、現在の事実に反することを想像していますので、仮定法過去を使います。まず If I knew his adress を作り、その後、I would send him this book を続けましょう。

Note



仮定法過去では、 $If \sim のところが be 動詞のときは次のようになります。$

If 節が be 動詞のときは、were を使う。 (口語では was もある。)

If I <u>were</u> you, I wouldn't do such a thing. (もし私があなたなら、そんなことはしないだろう。)

(2)の問題では「もし私が鳥なら、あなたのところへ飛んで行けるのに。」で、実際は「私は鳥ではないので、飛んではいけない」ですから現在の事実に反する想像になりますので、仮定法過去を使います。 If I were a bird を作り、その後に I could fly to you を続けることになります。

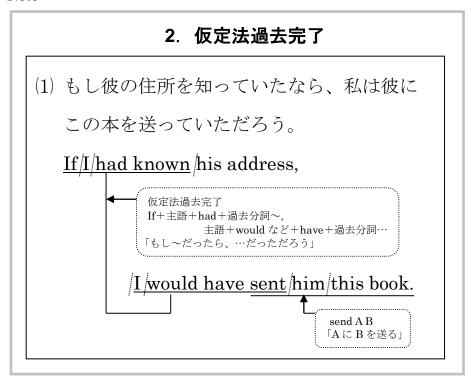
- (1) もし彼の住所を知っていたなら、私は彼に この本を送っていただろう。
 - (would / known / address / , / have / I / I / his / if / him / had / . / book / sent / this)
- (2) もし私がその電車に乗っていたなら、今ごろ は京都にいられるのに。

(taken/,/in/I/be/now/the/I/if/had/./Kyoto/train/could)

- (1) If I had known his address,
 - I would have sent him this book.
- (2) If I had taken the train,

I could be in Kyoto now.

Note



さて、仮定法過去は「現在」の事実に反する想像でしたが、「過去」の

事実に反する想像は「仮定法過去完了」を使います。

仮定法過去完了…過去の事実に反することを想像して述べる表現。

そして、その基本の形と意味は次のようになります。

[仮定法過去完了の基本形]

If+主語+過去完了 ~, 主語+would+have+過去分詞 ….

should could might

[意味]

「もし~だったら、…だっただろう(に)」(would, should のとき)

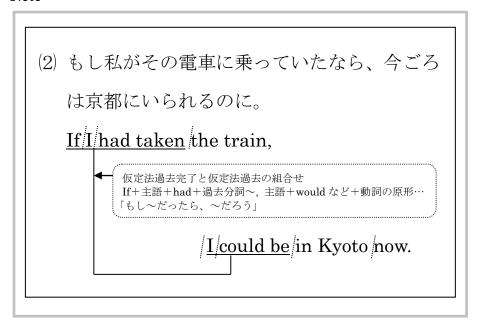
「もし~だったら、…できただろう(に)」(could のとき)

「もし~だったら、…だったかもしれない(のに)」(might のとき)

- If I had known his address, I would have written to him.
- (もし私が彼の住所を知っていたなら、手紙を書いただろう。)
- If I had known his address, I could have written to him.
- (もし私が彼の住所を知っていたなら、手紙を書くことができたのに。)
- If I had known his address, I might have written to him.
- (もし私が彼の住所を知っていたなら、手紙を書いたかもしれない。)

(1)の問題では「もし彼の住所を知っていたなら、私は彼にこの本を送っていただろう。」ですが、実際は「彼の住所を知らなかったので、本を送らなかった」ということです。過去の事実に反することを想像していますので、仮定法過去完了を使って、まず If I had known his adress を作り、その後、I would have sent him this book を続けることになります。

Note



(2)の問題は、今まで述べた仮定法過去と仮定法過去完了を組み合わせた次のような表現を使っています。

[仮定法過去完了+仮定法過去]

If+主語+過去完了~,主語+would+動詞原形….

should could might

〔意味〕

「もし~だったら、…だろう」(would, should のとき)

「もし~だったら、…できる(のに)」(could のとき)

「もし~だったら、…かもしれない(のに)」(might のとき)

これは「過去において~だったら、今は…だろう」と過去の事実に反する行動や出来事・状況が現在に影響を及ぼしていることを示す表現です。

(1) もし仮にあなたが死んだら、彼らは悲しむでしょう。

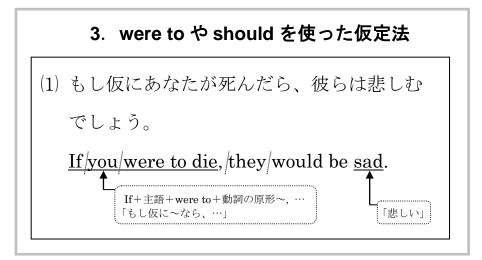
(to/would/you/./they/die/if/be/,/were/sad)

(2) もし万一4月に雪が降ったら、彼らは驚くでしょう。

(snow / April / it / , / surprised / will / if / in / . / at / should / it / be / they)

- (1) If you were to die, they would be sad.
- (2) If it should snow in April,
 they will be surprised at it.

Note



ここまで仮定法過去は「現在の事実に反すること、またはあり得ないことを想像して述べる表現」で、仮定法過去完了は「過去の事実に反することを想像して述べる表現」と述べました。この2つの表現が仮定法の中心ですが、どちらも「事実とは違う」ということが要点です。

これらとは別に、「まだ事実が確定していない将来や未来のことがらで、 しかも実現する可能性が低いと話し手が思っている仮定」を表す表現が 2 つあります。まずその 1 つ、〈were to の仮定法〉を述べると次のようにな ります。

[were to の仮定法]

If+主語+were to+動詞原形 ~, 主語+would+動詞原形 …. should could might

[意味]

「もし仮に~ならば、…だろう」(would, should のとき)「もし仮に~ならば、…できるだろう」(could のとき)「もし仮に~ならば、…かもしれない」(might のとき)

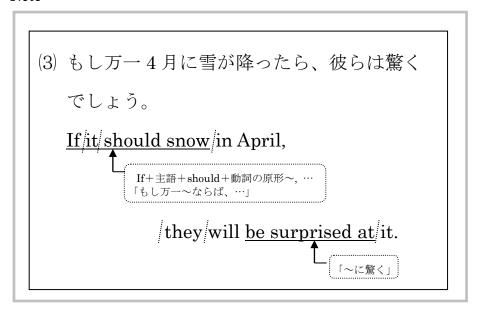
- ① <u>If you were to die, they would be sad.</u> (もし仮にあなたが死んだら、彼らは悲しむでしょう。)
- ② <u>If</u> the sun <u>were to</u> rise in the west, I wouldn't change my mind. (もし仮に太陽が西から上っても私は決心を変えないだろう。)

この〈If ~ were to …〉は、全く実現不可能な仮定から実現の可能性がある仮定まで、いろいろな段階の仮定を表すことができます。

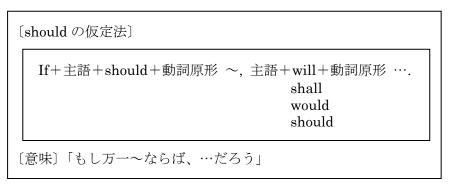
また、この構文を次に出てくる should の仮定法と合わせて、未来の内容を仮定するので「仮定法未来」と呼ぶこともありますが、動詞に過去形を使うので「仮定法過去」の1つであるとすることもあります。呼び方はともかく、この形を覚えておきましょう。

口語では、主語が 1 人称単数や 3 人称単数の場合に was to \sim が使われることがあります。また、文語調では if を省略して、〈Were+主語+to \sim 〉の語順になることがあります。

<u>Were</u> the sun <u>to</u> go out, all living things would die. (もし仮に太陽が消滅したら、生物はみな死ぬだろう。)



もう1つの表現は次のようなものです。



この〈If ~ should …〉は、そうした事態が起こるか起こらないかわからないが、話し手が可能性が少ないと思っている場合に用います。しかし、絶対に起こりえないことがらの仮定には使えません。

この should は if 節の内容の不確かさを示すために入っています。

可能性が五分五分のような単なる条件と話し手が思っているときは、主節のところに will や shall を使い、起こる可能性が極めて少ない内容だと思っている場合には、would や should を使います。

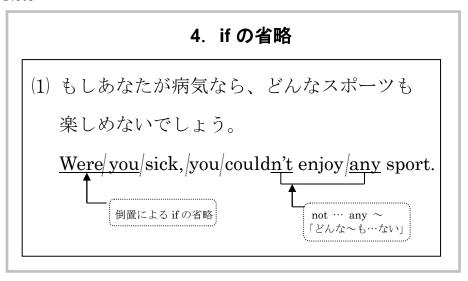
- (1) もしあなたが病気なら、どんなスポーツも 楽しめないでしょう。
 - (sick / enjoy / . / you / sport / couldn't / , / were / you / any)
- (2) もし私が彼の名前を知っていたなら、私は彼に話しかけただろう。
 - (him/his/would/spoken/,/had/./have/I/I/name/to/known)
- (3) もし万一それに失敗したら、私は再び試みる つもりです。
 - (in / try / I / I / it / should / . / , / again / fail / would)

- (1) Were you sick, you couldn't enjoy any sport.
- (2) Had I known his name,

I would have spoken to him.

(3) Should I fail in it, I would try it again.

Note



仮定法においては次の場合、if を省略することができます。

were, had, should を主語の前に出して倒置にすると、if を省略できる。

<u>Were he</u> a parent, he would feel differently. (もし彼が親なら、彼は違ったふうに感じるだろう。)

Had she gone to the station, she couldn't have seen him.

(もし彼女が駅へ行っていたら、彼とは会えなかったでしょう。)

Should anything happen, call me.

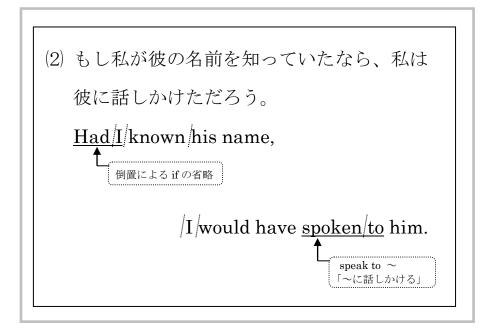
(もし万一何かあったら、私に電話してください。)

この形をとるのは were, had, should の場合だけで、その他の助動詞 (could, might など) が前に出ることはまれです。

また、この形は文語調になります。

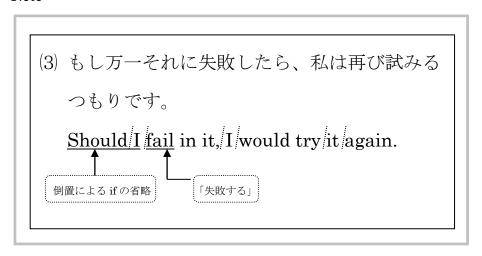
(1)の問題では「もしあなたが病気なら、…」となっていますが、()内の語に if がないので、Were you sick として英文を作りましょう。

Note



(2)の問題では「もし私が彼の名前を知っていたなら、…」ですが、() 内の語に if がないので、 $Had\ I\ known\ his\ name\$ と倒置の形にして英文を作ることになります。

Note



(3)の問題では「もし万一それに失敗したら、…」となっていますが、() 内の語に if がないので、Should I fail in it と倒置の形にすることになります。

- (1) もし水がないなら、私たちは生きることができないだろう。
 - (were / we / water / it / , / . / for / if / live /
 could / not / not)
- (2) もし空気がないなら、私たちは死ぬだろう。(it / air / we / die / were / . / not / would / , / for)
- (3) もしこの免許がないなら、私は運転できないでしょう。
 - (for /, / drive /. / not / this / I / but / could / license)
- (4) もしこの本がないなら、私は道に迷っているかもしれない。
 - (book/get/this/might/without/lost/,/I/.)

- (1) If it were not for water, we could not live.
- (2) Were it not for air, we would die.
- (3) But for this license, I could not drive.
- (4) Without this book, I might get lost.

Note

5. 仮定法を含む重要表現

(1) もし水がないなら、私たちは生きることができないだろう。

If it were not for water, we could not live.

if it were not for $\sim \lceil 5 \cup \sim 5 \rceil$

仮定法を含む重要表現には、まず次のようなものがあります。

If it were not for \sim , 主語+would など+動詞原形 …. 「もし \sim がなければ、…だろう」

<u>If it were not for</u> this book, I could not understand English. (もしこの本がなければ、私は英語が理解できないだろう。)

(1)の問題では「もし水がないなら…」となっていますので、If it were not

for water の語順にして英文を作りましょう。

Note

(2) もし空気がないなら、私たちは死ぬだろう。

Were it not for air, we would die.

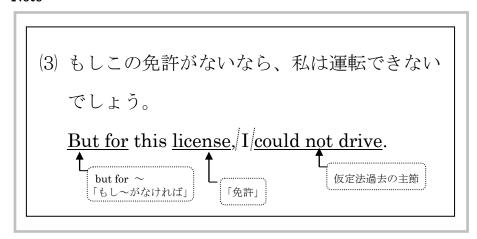
Were it not for ~ 「もし~がないなら」

この(2)の問題は(1)の表現を倒置にして if を省略したものです。

Were it not for \sim , 主語+would など+動詞原形 …. 「もし \sim がなければ、…だろう」

(2)では「もし空気がないなら…」ですが、()内に if の語がないので、Were it not for air の語順を作ることになります。

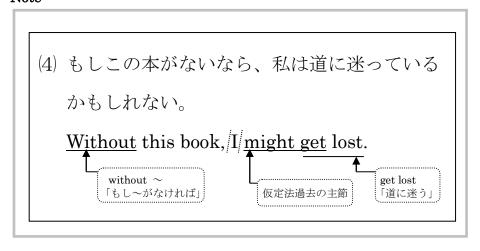
Note



(1)や(2)と同意のものに次の表現があります。

(3)の問題では「もしこの免許がないなら…」ですので、But for this license の語順にして英文を組み立てましょう。

Note



同様なものに次のような表現もあります。

(4)の問題では「もしこの本がないなら…」ですので、Without this book の語順を作ることになります。

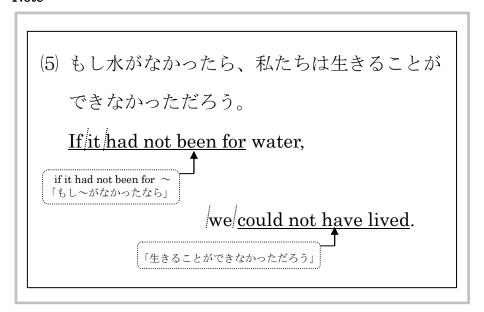
- (5) もし水がなかったら、私たちは生きることができなかっただろう。
 - (been / water / it / lived / not / if / could / for / had / , / not / . / have / we)
- (6) もし空気がなかったら、私たちは死んでしまっただろう。
 - (been / , / it / air / die / for / had / . / have / we / not / would)
- (7) 彼の車がなかったら、私は遅れていただろう。
 (I/for/late/have/his/but/,/been/./
 car/would)
- (8) この本がもしなかったら、私は道に迷っていたかもしれない。
 - (book / got / this / might / without / lost / ./I/./have)

(5) If it had not been for water,

we could not have lived.

- (6) Had it not been for air, we would have die.
- (7) But for his car, I would have been late.
- (8) Without this book, I might have got lost.

Note



(1)~(4)の英文は「現在の事実に反する仮定」ですので、「仮定法過去」 を使った表現でしたが、同じように「過去の事実に反する仮定」の「仮定 法過去完了」を使った次のような表現があります。 If it had not been for ~, 主語+would have+過去分詞 …. 「もし~がなかったならば、…だっただろう」

(5)の問題では「もし水がなかったら…」ですので、If it had not been for water の語順にして英文を作りましょう。

Note

(6) もし空気がなかったら、私たちは死んでしまっただろう。

Had it not been for air, we would have die.

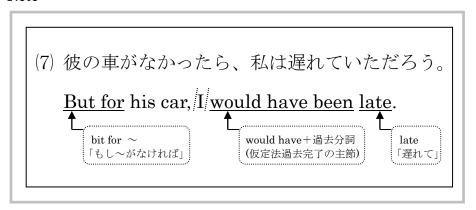
Had it not been for ~
「もし~がなかったなら」

この(6)の問題は(5)で使っている表現を倒置にしてifを省略したものです。

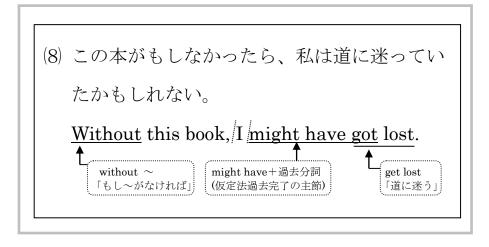
Had it not been for \sim , 主語+would have+過去分詞 …. 「もし \sim がなかったならば、…だっただろう」

(6)では「もし空気がなかったら…」ですが、()内に if の語がないので、 Had it not been for air の語順を作ることになります。

Note



Note



(3)や(4)の問題で出てきた but for ~や without ~も、上の問題(7)や(8)のように仮定法過去完了で使うことができます。

But for \sim , \cdots . 「もし \sim がなかったら、 \cdots 」 Without \sim , \cdots . 「もし \sim がなかったら、 \cdots 」

- (9) 彼女の名前を知っていればいいのになあ。 (knew/wish/name/./I/I/her)
- (10) そのコンサートのチケットを買ったらよかっ たのになあ。
 - (bought / ticket / wish / concert / . / the / had / I / I)
- (11) 彼女はまるで母親のように話す。
 - (she/talks/./if/were/mother/she/a/as)
- (12) 彼はまるで本当にそこにいたかのように話した。
 - (if / really / . / talked / been / he / there / he / had / as)

- (9) I wish I knew her name.
- (10) I wish I had bought the concert ticket.
- (11) She talks as if she were a mother.
- (12) He talked as if he had really been there.

Note

(9) 彼女の名前を知っていればいいのになあ。

I wish I knew her name.

I wish+仮定法過去「~ならいいのになあ」

仮定法には、現在や過去の事実と異なることを願ったり、悔やんだりする気持ちを表す次のような表現があります。

- ① I wish+主語+過去形 ~. 「~ならいいのになあ」
- ② I wish+主語+過去完了 ~. 「~ならよかったのになあ」
- ① <u>I wish</u> I <u>were</u> a university student.

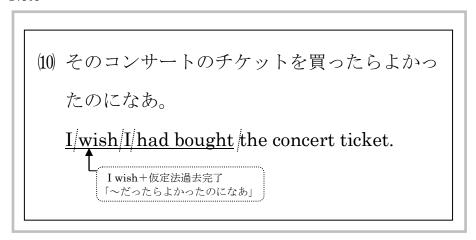
(私は大学生ならいいのになあ。)

I wish I could fly. (私は飛ぶことができたらいいのになあ。)

② <u>I wish</u> I <u>had married</u> another man. (私は別の男と結婚すればよかったのになあ。)

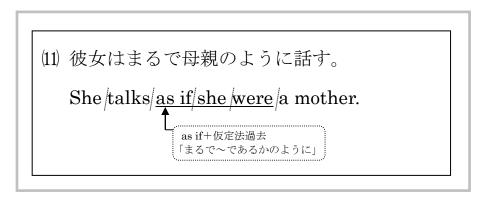
(9)の問題では「…がわかればいいのになあ」なので、〈I wish+主語+過去形 \sim .〉の表現を使って、I wish I knew の英文を作りましょう。

Note



(10)の問題では「…が買えたらよかったのになあ」と過去の事実と異なることを願っていますので、〈I wish+主語+過去完了 \sim .〉の表現を使って、I wish I had bought の語順を作ります。

Note



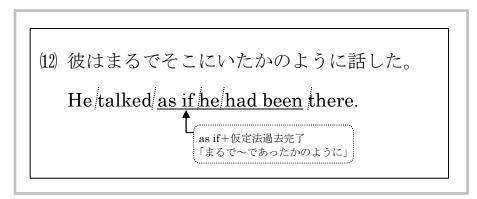
仮定法には、「まるで~であるかのように」などと事実とは異なるたと えを述べる次のような表現があります。

- ① as if [as though]+主語+過去形 ~. 「まるで~であるかのように」
- ② as if [as though] + 主語+過去完了 ~. 「まるで~であったかのように」
- ① She talked <u>as if</u> she <u>were</u> a mother. (彼女はまるで母親のように話した。)
- ② She talks <u>as if</u> she <u>had been</u> a mother. (彼女はまるで母親だったかのように話す。)

主節と同じ時のことがらなら主節の時制にかかわらず①の仮定法過去で、主節より前の時のことなら②の仮定法過去完了を使います。

(11)の問題では、「まるで母親のように話す」で主節の talkes と同じ時なので、仮定法過去の形をとって as if she were a mother とします。

Note



(12)の問題では「まるでそこにいたかのように」となっていて、これは talked より前の時のことなので、仮定法過去完了の形を用います。、as if he had been there とすることになります。

- (it / . / only / snow / would / if)
- (14) もうあなたは寝る時間ですよ。 (time/went/you/to/it/./bed/is)
- (15) 私を手伝っていただけますでしょうか。(could / wonder / you / me / help / I / . / if)
- (16) この傘を使ってもよろしいでしょうか。 (if / ? / you / used / this / would / I / mind / umbrella)

- (13) If only it would snow.
- (14) It is time you went to bed.
- (15) I wonder if you could help me.
- (16) Would you mind if I used this umbrella?

Note

(13) 雪が降りさえすればいいのになあ。

If only it would snow.

If only+仮定法過去「~しさえすればよいのだが」

(13)の問題は次の表現を使って英文を作りましょう。

- ① If only+主語+過去形 ~. 「~でさえあればなあ」
- ② If only+主語+過去完了 ~.「~でさえあったらなあ」
- ① If only I could swum.(私が泳ぐことさえできればいいのになあ。)
- ② <u>If only</u> our team <u>had won</u> the game. (私たちのチームがその試合に勝ってさえすればなあ。)

この表現は、①現在や②過去の事実と異なる強い願望や後悔を表すものです。I wish よりやや強い言い方になります。

Note

(14) もうあなたは寝る時間ですよ。

 It is time you went to bed.

 It is time+仮定法過去「もう~してもよい時間だ」

14)の問題は次の表現を使って英文を組み立ててください。

It is time+主語+過去形 ~. 「もう~してもよい時間だ」

<u>It's time</u> you took a bath. (もうお風呂に入る時間です。)

これは「もう~してもいい時間なのに、まだしていない」と相手に注意 を促す表現です。time の前に about や high を伴うこともあります。

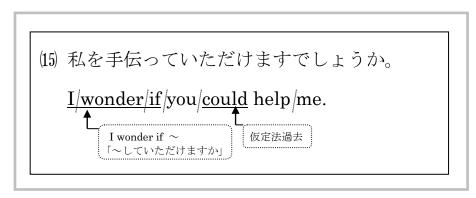
It's about time you took a bath.

(もうそろそろお風呂に入る時間です。)

It's high time you took a bath.

(もうとっくにお風呂に入る時間です。)

Note



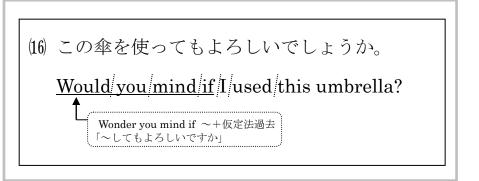
(15)の問題は次の表現を使っています。

I wonder if + 主語 + 過去形 \sim . 「~していただけますか」

wonder if \sim は「 \sim か(どうか)なと思う」という意味です。その後に仮定法過去を置いて丁寧さを表しています。

仮定法は可能性や実現性が低いことを表し直接的な意味合いが薄れるので、「もしよければ〜」「もしできれば〜」といった丁寧な表現として使うことができるのです。

Note



16の問題は次の表現を使っています。

Would you mind if ~? 「~してもよろしいですか」

mind は「~を嫌だと思う、気にする」という意味で、Would you mind if ~? は「もし~したら、あなたは嫌でしょうか」というのが文字通りの意味です。would を使うことで丁寧な表現になります。

また、if ~の後の動詞は過去形(仮定法過去)にするのが丁寧な感じになってふつうですが、現在形でもかまいません。ただ、現在形を使うとくだけた感じになります。

(1) いい友だちなら、そのようなことは言わない だろう。

(wouldn't / things / good / . / that / say / like / a / friend)

(2) 彼女を見れば、彼らは彼女を天使だと思うだろう。

(they/,/see/an/think/angel/to/./ her/would/her)

(3) 2 分早ければ、彼は電車に乗れただろう。
(minutes / , / he / . / train / have / two / the / could / earlier / caught)

- (1) A good friend wouldn't say things like that.
- (2) To see her, they would think her an angel.
- (3) Two minutes earlier,

he could have caught the train.

Note

6. if ~ に代わる表現

(1) いい友だちなら、そのようなことは言わない だろう。



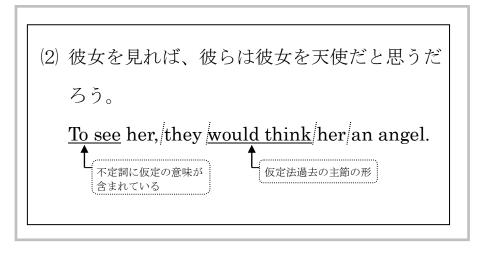
if 節以外で仮定の意味を含むものに、次のような場合があります。こうした場合、仮定法かどうかは主節の動詞の形で判断することになります。

- 主語
- ② 不定詞
- ③ 分詞
- ④ 場所・立場・時などの副詞(句)

- ③ <u>Arriving late</u>, you couldn't have take the plane. (遅れて到着していたら、その飛行機に乗れなかったでしょう。)
- ④ We could live happily <u>here</u>.
 (ここでなら、私たちは幸せに暮らせるでしょう。)
 <u>In your place</u>, I would do my best.
 (あなたの立場なら、私は全力を尽くすでしょう。)

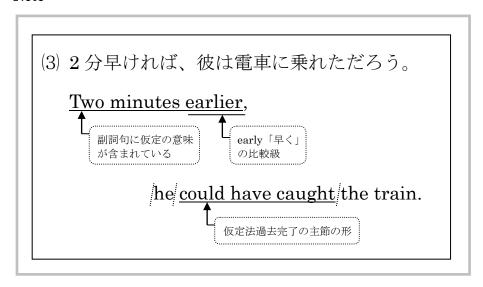
(1)の問題では「いい友だちなら…だろう」なので、①の用法の主語に仮定の意味が含まれていると考えましょう。そして「…言わないだろう」を仮定法過去の主節の形にして、wouldn't say とします。

Note



不定詞にも仮定の意味を含ませることができます。(2)の問題では、「彼女を見れば…」となっていますが、()内に if がないので、不定詞を使って To see her とすることになります。「…と思うだろう」を仮定法過去でwould think としましょう。

Note



場所・立場・時などの副詞句にも仮定の意味を含めることができます。 (3)の問題では「2 分早ければ…だろう」と過去の事実に反する仮定を述べていますのが、()内に if がないので、副詞句 Two minutes earlier を代わりに作ります。そして、主節は仮定法過去完了の形にして could have caught としてください。

- (4) もう一人いれば、野球ができるでしょう。
 (more / , / baseball / . / with / could / man / play / one / we)
- (5) 私はタクシーで行った。そうでなければ、私は遅れていただろう。

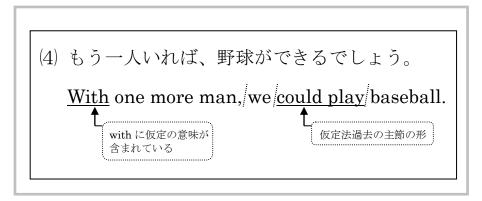
(taxi/went/,/have/I/otherwise/by/I/late/./been/would)

- (6) もしあなたがネコだったら、何をしますか。(you/,/you/what/were/suppose/would//a/do/?/cat)
- (7) ペンは、インクが入っていなければ、役に 立たない。

(which / ink / would / a / , / , / had / useless /
/ . / pen / no / be)

- (4) With one more man, we could play baseball.
- (5) I went by taxi,
 otherwise I would have been late.
- (6) Suppose you were a cat, what would you do?
- (7) A pen, which had no ink, would be useless.

Note

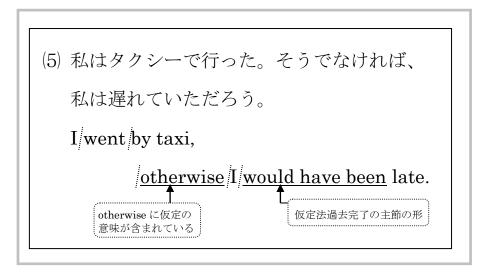


さらに加えて、if 節以外で仮定の意味を含むものに次のような場合があります。同じく、仮定法かどうかは主節の動詞の形で判断するのがポイントです。

- ⑤ with ⋄ without
- ⑥ otherwise「そうでなければ」
- ⑦ Suppose ~、Supposing ~「もし~としたら」
- ⑧ 関係代名詞

先に出てきた without の他に with にも仮定の意味を含むことができます。(4)の問題では「もう一人いれば…」なので With one more man とし、その後は仮定法過去の主節の形にして could play とします。

Note



otherwise は先に述べた事実に反する仮定を表し「もしそうでなければ、 もしそうでなかったら」などの意味になります。

(5)の問題では「私はタクシーで行った」という過去の事実が述べられていて、それに反する仮定「そうでなければ私は遅れていただろう」となっていますので、仮定法過去完了の主節の形を使って、otherwise I would have been late とします。

なお、otherwise には「別のやり方で」「その他の点では」の意味もあり、 この意味では仮定法にはなりませんので注意しましょう。

Note

(6) もしあなたがネコだったら、何をしますか。

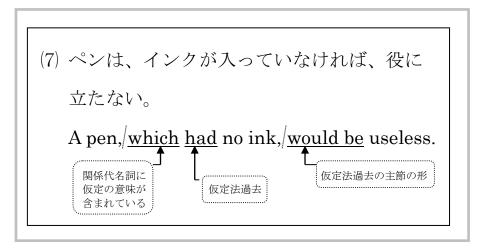
Suppose you were a cat, what would you do?

suppose に仮定の意味が含まれている

suppose や supposing「もし~としたら」が仮定法で使われることがあります。その後は実現の可能性があれば直説法(仮定法ではない通常の事実を述べる方法)、可能性が少ない場合は仮定法が用いられます。

Suppose she comes here? (もし彼女がここに来たら?) [可能性有り]

Note



関係代名詞にも仮定の意味を含む場合があります。(7)の問題では、pen を前に置いて、それを先行詞にして「インクが入っていなければ」を、,which had no ink, として英文を作りましょう。関係代名詞なので、A pen の後にコンマではさんで入れる形になります。